

聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科

修士論文コース / CNS (専門看護師) コース

St.Mary's College
Master of Science
in Nursing Program



2024

建学の精神

「カトリックの愛の精神」

主イエス キリストの限りなき愛のもとに、常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々と共に歩むことです。

沿革

1953(昭和28)年	医療法人雪の聖母会聖マリア病院開設
1973(昭和48)年	聖マリア病院附属聖マリア高等看護学院開設
1982(昭和57)年	学校法人聖マリア学院設立
1986(昭和61)年	聖マリア学院短期大学看護学科開設(～2009.3)
1989(平成 元)年	聖マリア学院短期大学専攻科(保健師・助産師)開設(～2009.3)
2006(平成18)年	聖マリア学院大学看護学部開設
2010(平成22)年	聖マリア学院大学大学院看護学研究科(修士課程)開設
2013(平成25)年	聖マリア学院大学専攻科助産学専攻開設
2017(平成29)年	新「図書館」棟竣工「聖マリア学院大学開学10周年事業の一環として」
2023(令和 5)年	看護教育開始から50周年 聖マリア病院開設70周年



ダル・ドゥ・ヴェール／
「出会」「受難」「復活」「希望」

人間性豊かな看護専門職の養成

本学大学院教育における理念は、建学の精神である「カトリックの愛の精神」を礎として人々の健康と安寧の維持と増進を図ることを念頭に、看護学の新しい知識・技術の開拓・発見・進展等に寄与することにあります。

本学看護学研究科における教育・研究・実践を通して、豊かな人間性と深い教養、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材の育成を目指します。

人間の尊厳を基盤とした 生命倫理の教育

生命・医療倫理の原則に基づき職務を遂行できる高度専門職業人の養成

理論に基づく看護実践の 基盤形成と展開

看護の教育・研究・実践による看護ケアのエビデンス形成と探求に貢献できる高度専門職業人の養成

Sr.Callista Roy博士(本学客員教授)の適応理論を含めた看護理論の基盤形成と展開に寄与する高度専門職業人の養成

高度の看護実践力を重視

医療・保健・福祉現場の看護の質向上に直接的に寄与できる高度専門職業人の養成

国際性・学際性を重視

国際的視野のもとに看護の教育・研究・実践を学際的に遂行できる高度専門職業人の養成

ごあいさつ

看護の向上・発展のために貢献できる優秀な人材育成を目指して



学長
井手 三郎

聖マリア学院大学大学院は、設置母体となる聖マリア病院開設時から、カトリックの愛の精神の下に、科学的診療と共に教育を行うことを明言し70年の歴史を背負っています。同院では、救急医療、新生児小児・周産期医療、脳神経等高度医療、国際医療協力、ホスピス、在宅医療、更にデータヘルスサイエンス等を他に先駆けて展開してきました。またこれらの基盤となる生命倫理教育も40年程の歴史を有しています。これらの結実として、本学大学院の教育が行われています。人間の尊厳というフィロソフィーを根幹に、エビデンスに基づき、看護領域等の高度な保健医療の展開に資する人材の養成が出来るよう、最高の教育・研究の環境を提供出来るよう日々努力を重ねております。



研究科長
眞崎 直子

看護は実践の科学です。保健医療福祉を取り巻く現状は、先の見えない課題に日々直面しながら高度な実践力とエビデンスに基づく解決力で前に進んでいくことが求められます。本学大学院看護学研究科修士課程では、「健康・療養支援看護学」「MCH(周産期・母子)看護学」「統合看護学」「データヘルスサイエンス看護学」の4つの専門教育領域を有しています。各領域の修士論文コースでは、研究によるエビデンスの構築、アウトカムの探求、ケアに関わる現象の明瞭化等、看護の知識発展に貢献できる教育・研究者の育成を目指します。また、高度実践看護の教育には、38単位カリキュラムの慢性疾患看護と母性看護のCNS(専門看護師)教育科目を充実させ、CNSとして看護の役割拡大とケアの質向上に資する人材育成に努めます。看護実践を科学的視点で明らかにするスキル向上を目指し、チャレンジする皆様を全力で支援してまいります。

【研究者・教育者を育てる4の領域(修士論文コース)】& 【高度実践看護師を育てる2つの領域(専門看護師コース)】

修士論文コース (Master's Thesis Course)

1 健康・療養支援看護学領域

健康維持・罹患予防を探究するヘルスプロモーション看護学(地域看護学、公衆衛生看護学)分野、子どもとその家族の健やかな心身の成長の支援を探究する小児・子育て支援看護学分野、高度先進医療や全身管理、苦痛緩和及び回復促進のための援助方策を探究するクリティカルケア看護学分野、慢性疾患を有する人の症状管理・自己管理、リハビリテーションを探究する療養支援慢性看護学分野、サクセスフルエイジング・介護予防を探究する老年看護学分野、精神疾患をもっていない人をも含めた精神の健康の促進及び精神疾患をもっている人への卓越した精神看護を探究する精神看護学分野の6つの分野があります。それぞれの分野に必要な理論、概念の理解と、それに基づいて保健、医療、福祉における看護実践に伴う現象を研究し、エビデンスを構築する能力を目指します。

2 MCH(周産期・母子)看護学領域

女性の一生を支える健康生活支援、特に、妊娠・出産・育児に対するより望ましい支援を実践するために、正常経過および、ハイリスク状態にある母子と家族に対する医療・助産・看護支援の実践、母子とその家族を中心に置いた高度医療施設と地域の連携・調整について学修し、特に周産期を中心とした高度な看護・助産実践のできる人材を育成します。

3 統合看護学領域

看護政策・管理・教育システム〔国際比較〕分野では、医療制度・看護制度・看護教育制度の将来構想、また新たなシステム構築に向けた関連組織の動向を把握し、欧米諸国との比較研究や政策評価を踏まえた研究活動について、国際看護学分野では、近年の看護の国際化や、海外医療協力への関心の高さを受け、国際人・国際看護協力者としての資質を高めるための研究活動を教授・支援します。国際医療協力における学術的な活動や研究について学び、フィールドスタディを経験するなどにより国際看護の視点を育み、グローバルヘルスに協力できる能力を養うことを目的とします。

4 データヘルスサイエンス看護学領域

データヘルスサイエンス看護学領域では、Society5.0に向けたヘルスケア分野におけるビッグデータ等の利活用とELSI(Ethical, Legal and Social Issues)を視野に、従来の疫学・統計学の知識を応用したデータ思考を学び、看護におけるデータヘルスサイエンスに関する分析力・探求心を持ち、時代の変化に対応した根拠に基づく高度な看護実践のできる人材を育成します。

令和5年度
より
新設!

慢性と母性は九州で唯一のCNSコースです!

CNS(専門看護師)コース(Certified Nurse Specialist Course)

“慢性疾患看護”専門看護師コース、及び“母性看護”専門看護師コースを開講

日本看護系大学協議会、日本看護協会によるCNS(専門看護師)認定制度が発足して以来、これまでに11分野の専門看護師養成領域において、計1,862名(平成29年5月現在の登録者数)のCNSが、高度の看護実践能力が必要とされる其々の現場で活躍しています。少子高齢社会や、疾患とそれに伴う生活の長期管理を必要とする人々の増加を背景に、これまで以上

に看護職への期待が高まっています。本大学院では、「慢性看護専攻教育課程」「母性看護専攻教育課程」の2分野で、日本看護系大学協議会が認定する38単位カリキュラムのCNSコースを開講いたします。

CNS(専門看護師)の教育理念/日本看護系大学協議会認定:38単位課程

専門看護師は、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目的として、個人、家族及び集団に対してケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供します。

1.慢性看護 専門看護師コース

「慢性看護専攻教育課程」
教育目標(日本看護系大学協議会)



CNS共通科目:ライフスバンフィジカルアセスメント

- 1.慢性病が個人及び家族の健康や生活に及ぼす影響・特徴と、療養行動特性を理解した慢性病の予防と管理ができる。
- 2.慢性疾患の病態生理と慢性病者の発症から死までの変化を理解したケアとキュアの統合による看護支援の提供ができる。
- 3.“慢性病を持ちながらの質の高い生活”を重視し、身体/心理社会的対処能力を高めることができる。
- 4.生活の質を重視した、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理ができる。
- 5.専門知識・技術の向上を図るために、看護活動に関する研究活動に参加し、それを支援できる。

2.母性看護 専門看護師コース

「母性看護専攻教育課程」
教育目標(日本看護系大学協議会)



PIC(周産期集中ケア)特論II 新生児蘇生法演習

- 1.リプロダクティブ・ヘルスの状態を診断し、健康問題の予測、健康の保持増進や異常への移行防止を目指すことができる。
- 2.熟練したケア技術とキュアの知識により、正常からの逸脱や合併症の病態への医療的介入を判断し緊急事態に対応できる。
- 3.母性看護領域の研究を推進し、最新の研究成果を実践に役だてることができる。
- 4.医療ケアチームの中で、コーディネータの役割を担い、ケアシステムの改善・改革にリーダーシップを発揮できる。
- 5.リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理的問題を判断し、解決に向けて助言及び支援ができる。
- 6.この分野の看護基礎教育、臨床教育、専門看護師教育にかかわり、適切な助言や支援ができる。

柔軟なカリキュラム提供による社会人学生への修学支援 ～週末・夕刻開講による社会人学生への修学支援

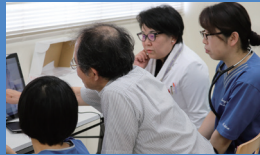
～週末・夕刻開講、個別ゼミ学習、単一科目履修制度、長期履修制度～

在職中の社会人の皆様を対象とした修学支援の一環として、週末や夕刻の時間帯に集中講義、個別ゼミ学習など柔軟なカリキュラム選択・時間割設定を提供しています。また、在学期間を予め3年間もしくは4年間の設定(2年間分の授業料で3年間もしくは4年間在籍可能)とし、修了まで計画的カリキュラム進度を設計する“長期履修制度”や、特定の授業科目を受講する“科目等履修制度”(1科目から履修登録可能で、将来、本課学生として入学した場合、既修単位として認定)を設け、各種奨学金制度と併せ、キャリアアップを目指す、志高い看護職の方々を支援します。

大学院看護学研究科(修士課程)授業科目

2024年度入学生用

区分		授業科目				
基盤教育科目		生命倫理 看護倫理 看護理論 看護教育論 看護管理論	看護政策論 看護研究 コンサルテーション論 データヘルスサイエンス 概論	疫学特論 臨床統計特論 保健医療福祉政策論 生体感染防御論	ライフパンフィジカルアセスメント 臨床病態生理学 臨床薬理学 異文化理解と国際医療協力論	研究論文(英文)クリティカル・ライティング APN(Advanced Practice Nursing)特論
専門教育科目	健康・療養支援看護学領域	ヘルスプロモーション看護学特論 ヘルスプロモーション看護学演習(地域包括ケアシステム) 小児・子育て支援看護学特論 小児・子育て支援看護学演習 クリティカルケア看護学特論	クリティカルケア看護援助特論 クリティカルケア看護学演習 療養支援慢性看護学特論 療養支援慢性看護学援助特論 療養支援慢性看護学演習IA 療養支援慢性看護学演習IB	療養支援慢性看護学演習IIA 療養支援慢性看護学演習IIB 療養支援慢性看護学実習I 療養支援慢性看護学実習II 療養支援慢性看護学実習III 老年看護学特論	老年看護学演習 精神看護学特論 精神看護学演習 リハビリテーション看護学特論 健康・療養支援看護学演習	
	MCH(周産期・母子)看護学領域	ウイメンズヘルス看護学特論 MCH(周産期・母子)看護学特論I MCH(周産期・母子)看護学特論II	MCH(周産期・母子)看護学特論III PIC(周産期集中ケア)特論I PIC(周産期集中ケア)特論II	PIC(周産期集中ケア)特論III MCH(周産期・母子)看護学特論実習I MCH(周産期・母子)看護学特論実習II	MCH(周産期・母子)看護学特論実習III	
	統合看護学領域	看護政策・管理学特論(国際比較) 看護教育学特論(国際比較)	看護政策・管理学演習(国際比較) リーダーシップとデリゲーション	国際看護学特論 国際看護学方法論	国際看護学演習 国際看護学フィールドスタディ	
	データヘルスサイエンス看護学領域	データヘルスサイエンス看護学特論I	データヘルスサイエンス看護学特論II	データヘルスサイエンス看護学方法論I	データヘルスサイエンス看護学方法論II	
	研究指導	課題研究 特別研究				
	関連科目	APN(Advanced Practice Nursing)研究A		APN(Advanced Practice Nursing)研究B		



※「カリキュラム」・「履修モデル」は本学ホームページをご覧ください



専任教員一覧(大学院科目担当)

2023(令和5)年5月1日現在

基盤教育

教授 井手 信 / NOBU IDE
 教授 E.フォーティン / ERIC FORTIN
 教授 井手悠一郎 / YUICHIRO IDE

教授 井手 三郎 / SABURO IDE
 教授 中山 和道 / TOSHIMICHI NAKAYAMA

専門教育

[健康・療養支援看護学領域]

教授 眞崎 直子 / NAOKO MASAKI
 教授 崎田 マユミ / MAYUMI SAKITA
 教授 堤 千代 / CHIYO TSUTSUMI
 教授 橋口 ちどり / CHIDORI HASHIGUCHI
 准教授 谷 多江子 / TAEKO TANI

教授 日高 艶子 / TSUYAKO HIDAKA
 教授 中村 和代 / KAZUYO NAKAMURA
 教授 鶴田 明美 / AKEMI TSURUTA
 准教授 小浜 さつき / SATSUKI OBAMA

[MCH(周産期・母子)看護学領域]

教授 桃井 雅子 / MASAKO MOMOI
 准教授 野口 ゆかり / YUKARI NOGUCHI
 准教授 川上 桂子 / KEIKO KAWAKAMI

准教授 浅野美智留 / MICHIRU ASANO
 准教授 柳本 朋子 / TOMOKO YANAGIMOTO

[統合看護学領域]

教授 近末 清美 / KIYOMI CHIKASUE
 准教授 秦野 環 / TAMAKI HATANO

[データヘルスサイエンス看護学領域]

教授 堤 千代 / CHIYO TSUTSUMI
 教授 井手悠一郎 / YUICHIRO IDE

※各教員の研究指導の内容については本学ホームページをご覧ください



修了生からのメッセージ

慢性看護専門看護師



独立行政法人
労働者健康安全機構
九州労災病院
看護部(地域医療連携室)
ヤスナガ メグミ
安永 恵
2017年度修了

私は2010年度に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師(以下、脳卒中リハ看護認定看護師)を取得した後、脳卒中を専門とする脳神経センターに所属し、患者・家族を対象とした脳卒中の再発予防教育の実践や患者教育に携わる看護師スタッフ指導に力を注いでいました。しかし、自分の知識・技術不足を痛感し、エビデンスが構築できる大学院で改めて看護学を学びたいと考え、慢性疾患看護専門看護師(サブスペシャリティ:脳卒中看護)を目指す決意を固めました。志望動機は、本学教授の看護学に対する真摯な姿勢や情熱に触れ、教授のもとで看護学を学び、脳卒中看護学の発展に貢献したいと考えたからです。本学大学院では、働きながら学業を両立する長期履修制度が設けられているため、臨床現場の事例を大学院でディスカッションすることができました。この貴重な経験は、理論と実践を統合した介入方法を検討する際の礎になっています。私は、2017年11月に慢性疾患看護専門看護師資格(サブスペシャリティ:脳卒中看護)を取得し、九州労災病院の地域医療連携室で勤務しています。主な活動内容は、①入院時支援加算のシステム構築、②慢性疾患管理を中心とした患者(家族)教育、③地域の保健福祉医療チームとの連携、の3つとなります。①では、平成30年度診療報酬が改訂され、新規に入院時支援加算の算定が可能となり、入院前からの支援の強化や退院時の地域の関係者との連携を推進するという国の指針のもと、関連する部署との連携を図り、新プロジェクトの構築を目指しています。②では、外来・入院患者に拘わらず、全ての慢性疾患患者を対象に、患者が主体となって慢性疾患管理が継続できる方法を一緒に検討・評価しています。さらに、入院患者においては、各病棟のカンファレンスに参加し、慢性疾患管理や症状マネジメントだけでなく、精神的・社会的側面や倫理的観点を加味した介入内容の提案を行っています。③では、ソーシャルサポートを必要とされる患者・家族を対象に地域の保健福祉チームと連携し、介入内容を検討しています。しかし、医療者が必要と考えるサポート内容と患者・家族が求めるサポート内容が合致しない場合もあるため、地域社会で生活する患者・家族の生きがいや価値観、意志を尊重した関わりを心がけて活動しています。



聖マリアヘルスケアセンター
サトウ トモコ
佐藤 友紀
2018年度修了

脳神経の病棟や回復期リハビリテーション病棟で働いていく中で、患者さんやご家族に対して看護師としての関わりを考えた時にもっと何かできることはないのか、看護についての学びを深めていきたいという思いがありました。そして今後も、脳卒中やリハビリテーションに関わる患者さんに対して専門性を高めて看護を行っていきたくと考え、聖マリア学院大学大学院に進学しました。

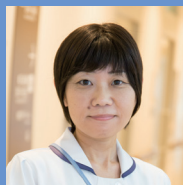
大学院では講義やディスカッションの中で新たな考え方や視点、自分に何が足りていないのかについて学ぶことができ、大学院で学んだ知見や研究で、日々やりがいや達成感を感じ臨床に活かすことができている。大学院に進学したことで、同じ志を持った仲間が増え様々なつながりを持つことができました。仕事との両立は大変なこともありましたが、先生方の熱心な指導や同級生のサポートで充実した日々を送ることができました。現在は、スタッフ教育に関する活動を主にしています。大学院で取り組んだ課題研究に関連して、ポケットエコーを使用して排尿や排便のアセスメントに活用しています。今後、更にポケットエコーを使用して排尿や排便のアセスメントに活用できるスタッフが増え、患者さんへ適切な看護が提供できるように支援していきたいです。



誠愛リハビリテーション病院
看護部
ヨシムラ アヤコ
吉村 綾子
2016年度修了

私はこれまで回復期リハビリテーション病棟で、主に脳卒中の患者さんを対象としたリハビリテーション看護に携わってきました。日々、看護を実践する中でもっと幅広い視野でより専門性のある看護実践能力を身につける必要があるのではないかと考えるようになり、専門看護師を目指しました。本学を志望した理由の一つは、本学の大学院は、「看護とは」、「人間とは」を幅広い視野で学ぶことができる大学院であると思ったからです。本学の精神でもある「カリックの愛の精神」を礎として人間の尊厳を基盤に看護教育を行っていること、ロイ応答看護モデルを実践・教育・研究に展開されていることに魅力を感じました。私が目標としているリハビリテーション看護の看護観にも通ずるものがあると感じています。現在は、慢性疾患看護専門看護師(サブスペシャリティ:脳卒中リハビリテーション看護)の認定を受け、脳卒中患者さんを対象とした誠愛リハビリテーション病院で勤務しています。脳卒中の後遺症により麻痺などの運動機能障害や高次脳機能障害により食事や排泄などのセルフケア能力が低下した患者さんに対して、入院当日から病棟看護師とともにアセスメントを行い、看護介入を早期に検討し実践することで患者さんの早期回復につなげていけるよう取り組んでいます。また、教育ではリハビリテーション看護の質の向上につながるような教育内容を企画し実施しています。大学院での3年間は仕事を続けながら通学させてもらったので、勤務と勉学の両立は大変でしたが、同じ悩みや志を持った同期や先輩から支えられ、とても充実した日々を送ることができました。何よりも看護学を改めて学ぶことができた喜びと大学院で学んだ全てのことは、看護実践の大きな支えになっています。これからもより多くの仲間と活動できたらと思いますので、みなさんも専門看護師を目指しませんか。

母性看護専門看護師



地域独立行政法人
佐賀県医療センター好生館
看護部 産婦人科病棟
テラ ユリコ
俵 由里子
2014年度修了

私は、助産師として周産期医療に14年携わり、多くの患者さんと関わり、後輩や学生の指導を行う中で、自身の助産師としてのアイデンティティについて疑問を持っていました。そこで一旦立ち止まり、これまでの自身の看護を振り返り、最新の知識の習得を通して看護について考え、これまでの経験で得たことを明確な意思をもって、これから関わる患者さんに活かしていきたいと思い専門看護師を目指しました。本学を志望したのは、教授の勧めで専門看護師というのを知り、本学に母性看護専門看護師コースがあったことと、聖マリア学院短期大学助産学専攻(現在は閉学)出身で自宅より通学可能であったためです。私が勤務する佐賀県医療センター好生館は、病床数450床、高度救急救命センターを有する急性期を中心とした佐賀県の医療の中心を担う病院で、産婦人科としては平成28年度より地域周産期母子医療センターの認定を受けています。私は現在、産婦人科病棟のスタッフナースとして勤務しています。本年度より母性看護専門看護師として、外来での妊産婦の保健指導、病棟でのハイリスク妊産婦の看護において患者と全力で向き合いながら専門看護師の視点で患者を全人的にアセスメントし、患者の複雑な問題を明確にして、今、患者さんに必要な看護実践を行っています。また医師、医療ソーシャルワーカー、小児科医師、他科、栄養士、薬剤師、地域などと連携を通してその間の調整、倫理調整を行いながら円滑なシステム構築を目指しています。実践を通してスタッフの教育を行い、最新の知識を活かしてスタッフと共同して業務手順を整備しながら業務改善を行っています。教育機能として看護学校での講義、社会活動として中学生への性教育を企画しています。看護実践の中で疑問を持ったことを言語化し自身の看護の振り返りをもとに研究活動を行っています。患者さんのために何ができるのか、看護の可能性を日々自問しながら意図をもった行動を意識して活動しています。

私は、妊娠期から地域に戻る産褥期までを通した母子とその家族の健康なスタートがされるような支援をしていきたい、また、周産期のみならず、女性の生涯の健康を送る視点を持った看護師、助産師として自律したいと考え、専門看護師を目指しました。九州内では本学に該当する教育課程があり、職場からの支援も得られることもあり、受験しました。現在は、地域周産期母子医療センターに勤務しており、県内近隣県のハイリスクな状態にある妊産婦のケアを外来と病棟、NICU/GCUのスタッフと実践を行い、関連病棟との調整や行政との連携を行っています。また、医師や他部門とのカンファレンスにおいて、スタッフが主体的に取り組めるようにサポートしています。実践を通し、倫理的視点を持つことができるような意図的な関わりを心がけています。院内では外来に所属していますが、積極的に活動できるような支援をうけて活動しています。院内外での周産期に関連したセミナー、地域での看護研究カフェセミナーを行い、共に学んでいます。

佐世保市
総合医療センター
外来
ミネハラ ナオコ
峰原 奈緒子
2016年度修了

三つのポリシー（看護学研究科）

1.ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現することを意図して編成されたカリキュラムの内容について、修了までに以下にあげる到達目標に達するとともに、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、本学の行う修士論文の審査および最終試験に合格した学生に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の価値、人間の尊厳について考え、保健医療福祉における全人的ケアについて探求する姿勢を身につけることができる。
2. 人間の生命と派生する諸問題に関心を持ち、人間の尊厳を尊重した社会のあり方、倫理の本質について研究の視点で捉え、知識を深め、実践することができる。
3. 看護の知識と研究する態度に基づいた医療・保健・福祉現場での看護実践を追求することができる。
4. 知識の探求力、他職種との協働力、現場環境への対応力を身につけ、現場の質向上に貢献できる高度実践看護師をめざすことができる。
5. ロイ看護モデルを含めた看護理論の開発・発展の過程を学び、看護実践への理論の活用について探求することができる。
6. 看護理論を看護実践において活用し、理論の有益性を検討・検証できる力を身につけることができる。
7. 看護の知識を実践・教育・研究のそれぞれにおいて、国際性・学際性をもって吟味し探求することができる。
8. 高度専門職業人として、看護の実践、教育、研究の分野で国際的、学際的な探求を行い、看護学の知識基盤の検証と発展に寄与することができる。

2.カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現するために、次のことを意図し、カリキュラムを編成する。

一編成方針・教育内容一

1.生命・医療倫理の原則に基づき職務を遂行できる高度専門職業人の養成

一生命倫理の教育を理念として根底に置く。

- (1)生命・医療倫理の教育には、基盤教育科目に「生命倫理」「看護倫理」を配し、大学院での高度専門職業人育成の根幹の一つとして医療倫理原理の修得を位置づけ、「看護研究」の科目では、医療倫理の研究を通して具体的に検討できるようにしている。
- (2)専門教育（専門領域）として、健康・療養支援看護学領域、MCH（周産期・母子）看護学領域、統合看護学領域、データヘルスサイエンス看護学領域の4領域を設定し、それぞれの領域の基礎を説明する科目として、各領域に「特論」科目を配置、これらの科目は、専門教育においても一貫して生命・医療倫理の原則を引き継いだ構成となっている。

2.保健・医療・福祉現場の看護の質向上に直接的に寄与できる高度専門職業人の養成

一医療等現場の質向上に寄与できる実践力を重視する。

- (1)高度専門職業人の養成には、教育・研究者をめざす修士論文コースと高度看護実践者をめざす専門看護師コースがある。共通の基盤となる科目には、「看護理論」「看護管理論」「看護政策論」「看護教育論」「コンサルテーション論」などがあり、専門看護師コースの基盤科目としてはさらに「臨床病態生理学」「臨床薬理学」「ライフスパンフィジカルアセスメント」を配している。
- (2)修士論文コースでは、健康・療養支援看護学領域にヘルスプロモーション看護学、小児・子育て支援看護学、クリティカルケア看護学、療養支援慢性看護学、老年看護学、精神看護学の6分野、MCH（周産期・母子）看護学領域にMCH（周産期・母子）看護学の1分野、更に統合看護学領域に看護政策・管理・教育システム（国際比較）、国際看護学の2分野、データヘルスサイエンス看護学領域にデータヘルスサイエンス看護学の1分野を設定する。それぞれの分野において、健康・療養支援（健康・療養支援看護学領域）、女性の生涯にわたる健康、周産期における母子とその家族の健康とその逸脱を含むリプロダクティブヘルス（MCH看護学領域）、医療供給制度、効果的ナリーダー・管理者、看護による国際協力（統合看護学領域）、看護におけるデータヘルスサイエンス（データヘルスサイエンス看護学領域）に関する科目を配置し、未対応の課題や実践上の問題などを「特別研究」のなかで研究に起こし、修士論文においてその研究のプロセスと結論を表現することができるカリキュラムを編成する。
- (3)専門看護師コースには、健康・療養支援看護学領域に慢性看護専門看護師コース、MCH（周産期・母子）看護学領域に母性看護専門看護師コースを設定する。慢性看護専門看護師コースでは、長期療養を特徴とする慢性期疾患患者のケアに必要な支援技術と医療・地域連携に関する理論を学ぶ科目、専門看護師支援技術と連携医療を演習する科目、医療的措置・薬物療法への対処技術を修得する科目、更に、専門看護師技術や連携医療、薬物療法他治療的介入の実際を学ぶフィールド科目を配置し、母性看護専門看護師コースでは、周産期における母子と家族についての理論を学ぶ科目、周産期医療におけるエビデンス獲得やアセスメントに基づく看護ケアを探求する演習科目、更にこれらの基礎知識を実践に応用しながら高度看護実践を探求する科目、また、専門看護師機能や質保証に資する高度な看護ケア実践力を深めるためのフィールド科目を配置するなど、各専門看護師コースにおいて、講義、演習、実習の重層的構造により、知識と実践の効果的連結を意図したカリキュラムを編成する。

3.看護の実践・教育・研究を通して、わが国におけるロイ理論を含めた看護理論の基盤形成と展開に寄与する高度専門職業人の養成

一わが国におけるロイ理論を含めた看護理論の基盤形成と展開を図る。

- (1)看護知識やケア技術の検証によるエビデンスの集積に寄与できる能力を獲得するための科目として、ロイ看護モデルを含む看護の理論を学ぶ科目「看護理論」と「データヘルスサイエンス概論」を有し、知識と実践スキルにおける課題と看護の役割について教育的に探求する科目「看護教育論」を配置する。

4.国際的視野のもとに看護の実践・教育・研究を学際的に遂行できる高度専門職業人の養成

一国際性・学際性を重視した教育を行う。

- (1)国際的視野に立った教育としては、「看護理論」は米国看護理論分析家による授業を配し、「異文化理解と国際医療協力論」では国際医療協力の交渉や実務の豊富な経験を有する者による授業を配し、国際医療協力を国際的・学際的に探求することができる科目を配置する。
- (2)統合看護学領域（国際看護学分野）では「国際看護学フィールドスタディ」を配しており、国際看護学を実地での修学を通して深めることができ、実地フィールドで見いだした課題を研究として修士論文完成のプロセスにおいて探求する。

一教育方法・評価方法一

- (1)実践や理論から導かれる自らの研究疑問に対して、調査研究によって探求する姿勢を育成する。
- (2)各科目のシラバスに時間外学修の内容を明記し、十分な学修・研究時間の確保を促す。
- (3)各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバスに明記し、さまざまな視点から学修成果を評価する。
- (4)学位論文審査に係る評価基準を定め、定められた審査基準、評価体制、方法により評価する。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本学の教育理念に基づき看護学・看護実践に対する正しい基本姿勢をふまえて、看護の分野における高度かつ専門的な学術の理論および実践を研究し、高度実践看護の実践者、指導者、教育者、研究者、管理者等となるべき人材、また、国際的視野のもとに看護の教育・研究・実践を学際的に遂行できる優秀な人材の開発・育成を目標としています。入学者選抜においては、以下にあげるような学生を求めています。

1. 豊かな人間性と、人間の尊厳を基盤に置く高い倫理観を求める者。
2. 本学看護学研究科の教育を受けるための基礎学力を有する者。
3. 看護学に対する強い興味と探究心を持ち、自立性および向学の志が高い者。
4. 修士課程を修了し、その研究成果の応用によって看護の分野における地域社会および国際社会の幸福と健康に寄与する意思を有する者。

聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科

〒830-8558 福岡県久留米市津福本町422番地

TEL 0942-35-7271
<https://www.st-mary.ac.jp>



[福岡空港より]

- ▶ 地下鉄空港線(姪浜・唐津方面行)に乗車 [12分] 天神下車
西鉄天神大牟田線特急(大牟田行)に乗りかえ [32分] 西鉄久留米駅下車
- ▶ 西鉄高速バス(久留米行)に乗車 [53分] 西鉄久留米駅下車

[JR久留米駅より] 新幹線/在来線

タクシー:10分 西鉄バス:50, 53番系統に乗車 [16分] 聖マリア病院前下車徒歩3分

[西鉄久留米駅より]

タクシー:5分 西鉄バス:50, 53番系統に乗車 [7分] 聖マリア病院前下車徒歩3分

[西鉄試験場前駅より] 徒歩7分

※お越しの際は、公共の交通機関等をご利用ください。

